



白松がモナカ本舗

数量
限定

漱石羊羹

販売価格
1,450円

漱石の好んだ
ピーナッツと紅茶。
二つの味を漱石の
好物だった羊羹に。

紅茶

ピーナッツ
落花生

若鮎 甘く柔らかな求肥を
カステラ生地で包んでいます。

小豆入り求肥

求肥

数量
限定

1尾160円

漱石生誕150年 仙台と夏目漱石

漱石の蔵書のほとんどは
東北大学図書館にある

戦火が激しくなった昭和19年、明治の文豪夏目漱石（1867～1916）の貴重な蔵書や日記、手帳など約3,000点が、東京の「漱石山房」から仙台の東北大学に移されました。これらの資料は「漱石文庫」と名付けられ、漱石研究に役立てられています。生誕150年の今年、東北大学附属図書館と白松がモナカ本舗ではこれを記念し漱石に関わるコラムを連載します。

漱石、天地山川を論じ、若き詩人を仙台に導くの巻

漱石センセイを巡る物語 —その⑤—

明治26（1893）年1月、東京帝国大学英文学科の卒業を前にした漱石は、「英国詩人の天地山川に対する観念」という講演を行いました。その講演は、同じ年に評論として発表されて、多くの人々に感銘をあたえました。

当時、仙台の旧制二高生だった21歳の土井晩翠もその一人で、この評論を読んだことで英文学を志し、明治27年に東京帝国大学英文学科に入学しています。晩翠が漱石とはじめて会ったのもこの年です。

漱石の評論は、英国詩人の天地山川（いわゆる自然）に対する文学的態度を論じたものでした。その頃注目されてきたワーズワースなどの英国詩の自然観を、日本ではじめて研究者の立場から論じ、「虹」などのワーズワースの代表的な詩作も解説紹介しています。この中でまた、自然を詠うこととなった英国文壇の状況について、社会の中心も文学の中心もロンドンであり、江山流水（自然）の美を詠むことはほとんどなかったとも書いています。

当代一の英文学者漱石が、文学史的に評価したワーズワースの自然を重んじる詩作は、当時の若き文人たちに感銘をあたえ、詩人たちを東京から地方へいざないます。晩翠は東京帝国大学で学んだのち、『天地有情』（写真A）の詩作を発表し、翌明治33年、旧制二高の教師として故郷の仙台に帰ります。その思いは短詩「広瀬川」の冒頭にあらわれているのではないのでしょうか。

「都の塵を逃れ来て 今わが帰る故郷（ふるさと）の 夕涼（ゆうべすず）しき広瀬川」（『天地有情』より）

同時代に都をはなれて仙台の東北学院に赴任した（明治29年）島崎藤村もまた、同じ気持であったのでしょう。藤村は仙台の自然にふれて、『若菜集』（写真B）の詩歌を一気に書き



写真B：『若菜集』
島崎藤村の第一詩集
明治30（1897）年刊行。
「まだあげそめし前髪」
ではじまる『初恋』などを収録



写真A：『天地有情』
明治32（1899）年刊行
土井晩翠の第一詩集



青葉通りに面した晩翠草堂に「天地有情」の題字を刻んだ石碑が立つ

あげました。後年藤村は、仙台について次のように回想しています。
「仙台で眺めのあるのは（眺めが素晴らしいのは）、ことに秋だ、とりわけて空の眺めがうるわしい。気候が不順で、海辺に近いところでもあるから、雲の変化の多いことは、とても都の空には比べられない」（『木曾谿日記』より）

自然に対する文学的な姿勢を考えさせる漱石の一篇の評論は、明治期の若き文人に大きなインスピレーションを与え、仙台に集った詩人たちはその天地山川にふれて才能を開花させます。藤村の『若菜集』、晩翠の『天地有情』は、その後多くの若者に愛され影響を与えた詩集となりました。松島、多賀城、宮城野など、萬葉の時から歌枕の地であった仙台は、明治時代にも詩作の源泉であったのです。

【文：米澤誠（元・東北大学附属図書館）】

夏目漱石
【慶応3年（1867）
～大正5年（1916）】



仙台駅東口にある
藤村広場

「日本近代詩発祥の地」石碑

【藤村とキクヨさん】

24歳の青年教師島崎藤村が、一年足らずの仙台滞在中に作った、みずみずしい詩の数々は、翌年「若菜集」として出版され、当時の若者の心をとらえて離しませんでした。

藤村が下宿し、詩作に励んだ仙台駅近くの宿屋「三浦屋」には、仙台女学校に通うキクヨさんという娘がいました。バイオリンも奏でる才媛ながら、「島崎さんもいいが、アス（足）が太過ぎる」と笑い出すような、おしゃまなひょうきん者。藤村は、気のおけない彼女にバイオリンを借りて楽しそう弾いていたそうです。失恋の痛手から仙台にやって来たとされる藤村ですが、傷心を癒したのはキクヨさんだったのかも。

三浦屋跡の近くには、地元町内会「名掛丁東名会」の手で「藤村広場」が整備され、「日本近代詩発祥の地」の石碑が建てられています。以上の微笑ましいエピソードも、資料を当たって調べた同会の梅津恵さんから教わりました。

君 菓
白松がモナカ
白松がヨーカン

本 社 仙台市青葉区大町二丁目8番23号 ☎022（222）8940（代）
☎0120—008—940
http://www.monaka.jp/